



～ 「自分のよさを認め可能性を伸ばす」～

石垣市立石垣中学校 校長 入嵩西 義晴

「あなたは、自分のよさを知っていますか。」

新学習指導要領の前文には、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあります。

本校では、何名の生徒が「自分のよさを知っているのだろうか。」

令和3年度6月に実施した「第2回沖縄県児童生徒質問紙調査」によると、「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに、「当てはまる」25.0%「どちらかといえば当てはまる」49.7%でした。この結果から、74.7%の生徒が肯定的な回答をしていて、約25%の生徒が自分のよさを認識していないということが分かりました。いわゆる「自己肯定感」が低いと思われる生徒がいるということです。

そこで、昨年度、校長講話において、その実態を生徒に伝え、「自分には、よさがある」という生徒を100%にしたいと校長としての思いを伝えました。また、各行事や集会等の機会においても、石中生一人一人のよさを伝えるとともに、「自分のよさを見つけよう、他人のよさを見つけてあげよう。」と呼びかけました。

ある学級では、生徒全員に自分のよさを短冊に書いてもらい、クラスメート一人一人のよさに気づき承認する取り組みを行う等、自己肯定感を高めるための意識した様々な取り組みが、各学級、各学年にも広がっていきました。

その結果、11月に行われた第2回目の調査では、肯定的な回答（「当てはまる」31.1%「どちらかといえばあてはまる」48.0%）が、79.1%（4.4%増）となり、自分のよさを認識している生徒が増えてきています。すなわち、石中生の「自己肯定感」が高まってきていることがわかります。

ところで、本校の生徒会は、スローガン「一生懸命が、かっこいい」と今年度のテーマ「Make an action!」のもと、生徒会活動を行っています。

この2年間の新型コロナの影響で、学校行事や生徒会行事の中止や延期、時間短縮、内容削減などがあり、思うように活動できませんでしたが、その中においても、石中生徒会は、生徒会として「何ができるか」を考え実践してきました。

3年に一度に行われる体育祭では、生徒会が、「運動の得意な生徒も苦手な生徒も全員が思いっきり楽しめる競技」を取り入れたいと、体育科職員と掛け合い、自ら企画、準備した生徒会種目「千変万化」をプログラムに組み込みました。

当日の体育祭は、全校一斉を変更して学年別の開催となりましたが、生徒会を中心に運営を行い、自分たちの手で競技を進めてくれました。1、2年生の競技では、3年生の生徒会役員が中心となって行い、3年生の競技では、2年生徒会執行部が3年生に負けないように進行していく姿がありました。運営す

る生徒も競技する生徒も、「一生懸命で、カッコいい姿」がありました。私は「みんなが楽しく、そして自分も楽しむ」時間を自らの手で創り上げた生徒を誇らしく思いました。また、体育祭という行事を通して、生徒一人一人が、自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を認めながら、生徒会活動のねらい「Make an action!」の実践を心から喜んでいます。

現在、本校には学校教育のあらゆる場面で、自分のよさを認め可能性を伸ばしていこうとする石中生の姿が見られ、また、それを先生方が支えている校風が見られます。

これからも本校は、「子どもは必ず伸びる。すべての子どもは、伸びる素質を持っている。その伸びるチャンスを与え、背中を押してあげることが、私達、大人の責務」を信条とし、職員一丸となって教育活動に取り組んでいきます。最後になりますが、地域の皆様、自分の夢や目標に向かって、一生懸命に頑張る石中生を、今後とも温かく見守り応援して下さいますようお願いいたします。

